

## 第11回「ハンガリー旅の思い出」2014年コンテスト作品

熊木恭一さんの作品

### ハンガリー旅行記

ヨー・ナポットこんには。観光の記憶を思いつくまま断片的につづってみたい。

ブダ地区の王宮は居城であると同時に、ルネッサンスや政治文化の中心地であった。マーチャーシュ教会のカラフルな屋根は陶磁器で有名なジョルナイ製。漁夫の砦の白い石灰石の尖塔と回廊からは、ハンガリー人にとって歴史的な場所でもある鎖橋、エルジェーベト橋が架かるドナウ川が望める。対岸の華麗な姿の国会議事堂の眺めは格別だった。



ペスト地区の英雄広場には建国千年記念碑が立ち、歴代マジャル民族の英雄たちの騎馬群像が並び、実に堂々たる勇姿だ。聖イシュトヴァーン大聖堂は壮大そのものの建造物であり、ドームの高さは96メートル。その規模に圧倒されてびっくり仰天してしまった。聖職者で初代国王イシュトヴァーンの彫像が置かれ右手のミイラが保管されている。



セルビア文化が色濃いドナウベンド地方のセンチンドレは可愛い町だ。近くには悠久の流れドナウ。一日中でも眺めていたくなった。バロック様式の正教会、カフェ・ギャラリーや雑貨屋の民族模様の陶器や刺繍がとても綺麗な。ゆったりとした散策は実に楽しかった。ホッローケーはのどかな雰囲気暮らし向きを見学。地酒パーリンカ、フォアグラを味見させてもらった。村落の中心には木材を多用した14世紀の小さな教会があり、奥床しかった。



首都ブダペストの展望で知られるのがゲッレートの丘。その麓ドナウ川沿いには優雅な都会的温泉浴場がいくつも点在する。時間が有れば温泉大国ハンガリーの湯に、のんびりとぜひ漬ってみたかった。チェス将棋でも指しながら。



イルミネーションクルーズでは、ヨハン・シュトラウスの「美しく青きドナウ」の調べの中、セーチェニ鎖橋の素晴らしい夜景が感動的であった。宮殿のような装飾がきらきら輝く国会議事堂が、世界一美しいというのには同感できる。



興味津々だったのは、ハンガリー国民を魅了し慕われているオーストリア・ハンガリーの皇妃エリザベートの話だ。マーチャーシュ教会、ゲデレー城、オペラ劇場、カフェ・ジェルボーや街中に、永遠の美貌シシィの痕跡が見られる。美の追求と彷徨の旅が生き甲斐という運命的生涯。舞踏会のドレスを身にまとった肖像画はとくに有名だ。26歳のエリザベートの優美さは際立っている。1837年12月24日(日曜日)誕生というシシィの伝記を、私は繰り返し読んでみた。





緑色の自由橋に近く、広大な中央市場があった。色鮮やかな野菜・果物・ナッツ類・肉類・チーズ・ハチミツなど何でもあるし安かった。スーパー・屋台や民芸品など見るだけでも楽しいが、本当は欲しいもの沢山あった。

お土産にしたトカイ地方の貴腐ワインは琥珀色が美しく、いつ飲もうかなと飾ってまだ眺めている毎日。真っ赤なパプリカパウダーはキュウリの酢の物にかけて試食済みだ。



姓名や住所の書き方が日本と同じ語順というのも、珍しくて面白かった。

プラハとウィーンなども回ったので、ブダペスト滞在はわずかに2泊3日で名残惜しかったけれども、ハンガリーの世界遺産の記憶は私の脳裏に長く刻まれるだろう。王宮の丘や三位一体広場の石畳を歩きながら、中世の歴史・社会・文化を思い巡らし、そんな風に思った。

旅行中は朝風呂に酒で、絵葉書たくさん書いて写真いっぱい撮って、グヤーシュもパプリカチキンも食べた。充実していたいへん愉快だった。またぜひ行ってみたい。

ケセネムありがとう、ヴィソントラーターシュラさようなら。

---